

## プロジェクト活動の半年間 —上半期の成果と今後の展望

## Mid term Project Reports: achievements in the first half of this year &amp; vision for the second half.

text: ngkashima

今年度もはや折り返し地点となり、プロジェクト活動は、中心的役割を担ってきたM2の引退など、ひとつの節目をむかえています。引退したM2や、現メンバーに各PJの半年間の成果や今後の展望について語ってもらいました。

## 高山 基礎調査から計画づくりへ



M2 土信田浩之

プロジェクトメンバーを9名と大幅に人員を増やした高山PJは、高山市全域を対象を拡大し、歴史文化基本構想の目指す「地域の文化財をその周辺環境を含めて総合的に保存・活用」のため、この半年は旧飛騨国の集落と、これまであまり注目されずにきた地区を中心とした基礎調査を行ってきました。今後はM1を中心に各集落文化の特徴と、旧飛騨国としての共通項を探りつつ、個々の文化財の特性を活かした計画づくりを進めていきます。

## 足助 好評のサイン計画を実現へ



M2 西川亮

学部生から留学生まで幅広いメンバーで活動している足助PJの今年度。前半はサイン計画の提案と地元の生活に注目して商店街の歴史変遷や生活の変化など、密度の濃い調査を中心に行ってきました。9月の活動報告会には、予想を超える地元の方々に来て頂き、商店街の歴史に多くの反響がありました。また、サイン計画は地元でも好評で、実現に向けて動き出しそうです。人数的には厳しい足助PJ。後輩に期待しつつメンバーも募集中です。

## 鞆 「鞆雑誌 2010」へ向けて



M2 六田康裕

昨年度末のWSの結果を踏まえ取り組まれた今年度前半の鞆PJにおいては、環境デザイン・観光・建築史・交通の4つの班に分かれての調査そして、その集大成として、昨年度に引き続き夜間の観光イベント、「ヨルトモ」を行いました。全体としては机上の提案にとどまらず「実際に、如何に人を動かすか」について学ぶことができたように思います。班の連携等課題も指摘されていますが、まずは「鞆雑誌2010」の発行に向け、頑張っていくこととなります。

## 佐原 「なんでも屋」で終わらないぞ!

D1 パンノイ・ナッタボン

地域観光と町並み保存の可能性を探ろうと始まった当PJは、気づいたらこの半年で、「駅前再開発の提案」で市長に面会したり、地元の皆さんと「夕涼み」イベントを行ったり、観光と町並み保存の関係を科学的に解明しようとしていたり、空き家問題の解決ビジョンを製作したりするなど、内容の濃いものになっています。このように「多岐に渡る課題」を扱っていることは、2009年度の佐原PJの最大の特徴です。

若干PJメンバーの疲れが見えてきたこの頃ですが、今年度の活動が単なる「なんでも屋」にならないために、今日もさわらざるの皆は今年度のまとめに向けて必至に作業をしています。



▲ 地元の皆さんと行った「夕涼みイベント」の実行メンバー

## 神楽坂 下半期も緻密な活動を展開

D3 中島伸

現場をよく観察し、よく考え、まちの人とよく話すをモットーに、フットワーク軽く、足繁く通いました。

- 毎月1回神楽坂建築塾(地元のまちづくり勉強会)に参加
- これまで2回都市デザイン研究室より発表(6月鈴木D、8月松井D)
- この秋より鈴木D、中島DがファシリテーターとしてWS運営に参加
- 6月6、7、13、14日公開ワークショップ開催(まちづくりの会と協働)
- 8月3、24日早稲田大学法科大学院日置研究室と研究協議会
- 11月3日まち飛びフェスタ参加

下半期は、月に一度、地元の方たちと議論し、まちづくりルール案を策定していきます。また、今年の調査をまとめて、地元で出版されるまちづくりキーワード集に掲載する原稿執筆し、年度末には調査報告書の作成を予定しており、下半期も奮って活動していきます。

## 浅草 まちづくりのスタートライン

M1 熊谷俊一

浅草PJでは二つの町内振興会へそれぞれまちづくりの提言を行ってきました。国際通り振興会ではシャボン玉を地域のシンボルとしたイベントを企画し、8月31日に台風で順延した企画も今月末実施の予定が立ちました。千束入谷振興会では基本的な分析と指針を作り、ようやくまちづくりのスタートラインに立ったという現状です。中島先生(@アメリカ)が「すばらしい!」となるような下半期になるようPJ一同身を粉にする所存でございます。



▲ 今月11月3日まち飛びフェスタにて、まちの方にヒアリング調査



# 日本全国OB・OGめぐり 第三弾!!

Lab's OB,OG Tour all over Japan vol.3

第3回 今川俊一さん(静岡県)

本コーナーも今号で第三回目。今回は2001年修了、現静岡市役所の今川俊一さんにお話を伺いました。

私は、2001年に修士課程を修了した後、本郷にある都市環境研究所というコンサルに5年間勤務し、さらに静岡市役所へ転職し、現在4年目を迎えています。コンサルでは、毎年平均7~8件くらい、大小様々な自治体で景観条例、風致地区・高度地区の指定、工場跡地の再利用計画、過疎打開の支援などを担当しました。そして、そうした業務に関わりながら、やはり自治体の内部に入り込んで都市計画に関わりたいと思うようになり、土地感もあり、政令市に移行したばかりの地方都市という点でやりがいを感じた静岡市へ転職しました。市役所では、最初の3年間、区役所の総務課に在籍し、総務・選挙・防災などを担当しました。仕事の中でまちづくり的なことに関われる機会は当然少なかったのですが、その間は、公務員特有の仕事方法(長所・短所)を観察したり、選挙・防災といった全く無縁に見えることも、ある意味で都市づくりの「根源」的な部分だと捉えて前向きに勉強してみたり、そして、業務時間外には役所内外の都市計画関係の人たちと人脈を築きながら情報収集したり、焦ることもありましたが無駄な時間ではなかったように思います。

今年は、政策研究大学院に派遣され、経済学やデータ分析などのツールを通して都市計画や制度を見る、といった自分にとっては新しい分野に接する機会をいただいています。帰静後は、そうしたのも踏まえて、自治体業務として都市づくりに携われればいいなあ、と考えています。(人事ばかりはどうなるか最後までわからないのですが、)

## IFSAHに D1 傅とD1 Mireille が参加

Two members from our lab participated in IFSAH (International Field School of Asian Heritage) in India.

D1 傅舒蘭

今回インドへ行くきっかけとなったのは西村先生が創立したイフサ(International Field School of Asian Heritage)というフィールドスクールです。第一回は2002年にタイで行われ、今回の第五回目の見学地区は南インドのタミルナードゥ州でした。この地域はイスラーム文化の影響をあまり受けることなく、古代より脈々とドラヴィダ文化の世界が続いてきました。各地で見られる様々な町は生活の多彩さや繊細な感覚を物語っています。現地での多様な活動(見学・ワークショップ・シンポジウム)を通して、大変勉強になりました。また驚くほど激しい社会格差を見た私は、生まれて初めて自分の社会に対する責任とは何かと自問しました。本当にいい経験になりました。次のIFSAHは来年の10月に台湾で行われるかもしれない、ということなので、研究室のみなさんも一度挑戦してみませんか。



▲ IFSAH参加メンバーと西村先生

5th IFSAH は以下の日程で開催されました  
10/1-10/10  
シンポジウム 10/8,10/9  
URL: <http://www.ifsah.net/>

## 代官山インスタレーション2009 M1山下らが展示

Yamashita and his friends display their work in Daikan-yama installation 2009.



▲ インスタレーションを楽しむ子ども達

text\_yamashita

この度代官山インスタレーション2009に友人と応募した作品案が入選し、実際に作品を展示することができました。このイベントは都市とアートの新しい関係性を探ることをテーマに、10点の作品を11月1~23日の間、代官山と中目黒の街中に展示しています。

作品名は「丘の音楽家」で、起伏の多い代官山の街の等高線を楽譜の五線に見立て、踏むとドやレなどの音階が鳴る装置を西郷山公園にちりばめました。丘に登ることに音が高くなり、空間が記号化されることで普段と違う都市空間の見え方を体験してもらえればと思います。興味のある方は是非お立ち寄りください!

代官山インスタレーション 2009

イベントの詳細は下記ホームページにて  
<http://www.artfront.co.jp/dinsta/>

## 中島直人先生のお便り Letter from Dr. Nakajima

イェール大学に留学中の中島先生に近況を知らせて頂きました



▲ YUDWにてブラッタス先生と

ご無沙汰しております。近況ですが、院生の頃に戻ったような生活というか、プロジェクトに参加できない分、院生のときよりも更に研究に没頭中、と言い切りたいところですが、実際は生活のもろもろに時間を取られてしまうことが多いです。しかし都市生活自体が研究の一環であるというのは都市計画学の一つの真理。普段は、ニューヘイブンの目抜き通り(静か...)の一角に入居しているYale Urban Design Workshop(YUDW)にいます。イェール大学建築学科のコミュニティデザインセンターであるYUDWに常駐しているのは、ディレクターで、とても気さくなアラン・ブラッタス教授、私と同世代だが妙に落ちついているプロジェクト・マネージャーのアンドレイ・ハーヴェル氏と私の3人だけですが、しばしば学生たちが訪ねてきたり、通りすがりの人がショーウィンドウの都市模型を眺めていたりします。自宅からどんなに遠まわりしても徒歩3分、職住近接のダウントウン生活です。

## 都市デザイン研究室 情報欄

おし  
らせ

M2西川、朝日新聞Key Personに載る!!

ヨルトモを終えた翌日の朝日新聞による取材が11月2日の広島版に掲載されました。

朝日新聞internet版  
URL: [http://mytown.asahi.com/hiroshima/news.php?k\\_id=35000430911020001](http://mytown.asahi.com/hiroshima/news.php?k_id=35000430911020001)

今年の忘年会は12月16日です!!

日時: 12月16日 研究室会議終了後  
場所: 鳳明館

### 11・12月の予定

11月17日	近代建築物研究会 OB岡本さん講演会
11月19日	2009年度第10回研究会会議
11月20日	UDCK3周年フォーラム
12月16日	2009年度第11回研究会会議
	2009年度 忘年会 @鳳明館

編集後記 text\_nakashima

今月のはじめに駒場に引っ越しました。とても居心地が良いのですが、マガジンの編集作業を開始してみるとなかなか本郷のメンバーとコミュニケーションとり辛いんだな、という実感。最近あまり人と話していない気がします...